

[資料]

海外文献の紹介とレビュー

Introduction and Review of Overseas Literature

Kapoor, J. R., Dlabay, L. R., & Hughes, R. J. (2012) *Personal Finance*. 10th ed.
McGraw-Hill/Irwin. (1)

カプア, J. R., ドラベイ, L. R., & ヒューズ, R. J.
『パーソナルファイナンス [第10版]』 マグウロヒル/アーウィン、2012年. (1)

鷺尾 紀吉

〈目次〉	1	本書の構成
	2	ファイナンシャル・プランニング・プロセス
	3	機会費用とお金の時間価値
	4	ファイナンシャル目標の達成
	5	レビュー

1 本書の構成

本書は、米国で発行されたパーソナルファイナンスの体系的専門書であり、3人の専門家によって執筆された共著の形をとっている。

執筆者を紹介すると、カップアは1969年からビジネス経済学の教鞭をとっているデュページ大学（イリノイ州）の教授であり、ドラベイはレイクフォレスト大学（イリノイ州）でビジネスを教えている教授である。さらに、ヒューズは1972年からパーソナルファイナンス、ビジネス数学、中小企業金融、会計学等を教えているダラス州コミュニティ大学の教授であり、またコンサルタントとしても活躍している。

本書は、1988年、米国マグロウヒル社から初版本が出版され、その後版が重ねられ、2012年に第10版が発行された。改訂のたびに内容の充実が図られている。第10版は、6つの部と19の章から構成されており、その内容は以下のとおりである。

第1部 パーソナルファイナンスのプランニング

第1章 パーソナルファイナンスの基礎とお金の時間価値

第2章 キャリアプランニングの財務的側面

第3章 お金の管理戦略：財務諸表と予算

第4章 税戦略の計画

第2部 パーソナルファイナンスの管理

第5章 ファイナンシャルサービス：貯金計画と支払勘定

第6章 消費者信用入門

第7章 信用財産の選択：信用代替の費用

第3部 購入の意思決定

第8章 消費者購入戦略と法的保護

第9章 家計決定：要因とファイナンス

第4部 財産の保険

第10章 財産と自動車保険

第11章 健康、障害及び長期介護保険

第12章 生命保険

第5部 財務資産の投資

第13章 投資の基礎的要因

第14章 株式投資

第15章 証券投資

第16章 投資信託投資

第17章 不動産投資と他の投資代替

第3部 ファイナンシャル将来のコントロール

第18章 早期開始：退職計画

第19章 財産計画

上記のように、本書は19章にわたってパーソナルファイナンスについて概説し、本文は666頁（付録を入れると700頁を越える）に及ぶ専門書となっているが、本稿においては、上記内容の中から、今回、「第1章パーソナルファイナンスの基礎とお金の時間価値」のうち、重要と思われる部分を以下に紹介し、次号以降、さらに本書の内容を続けて紹介することにする。

2 ファイナンシャル・プランニング・プロセス

パーソナルファイナンシャル・プランニングは、個人の経済的満足を達成するためにお金を管理するプロセスである。このプランニングプロセスは、あなたのファイナンシャル状況をコントロールすることを可能にする。あらゆる個人、家族又は家計は特有なファイナンシャルポジションをもち、それゆえ、いかなるファイナンシャル活動もある特定のニーズを目標に適合するよう、注意深く計画されなければならない。

包括的なファイナンシャル・プランニングは、生活の質を高め、将来のニーズや資産にかかわる不確実性を減じることによって、満足を増やすことができる。パーソナルファイナンシャル・プランニングの特有の優位性は、以下のものを含む。

- ・一生を通じた財務資産を獲得し、利用し、そして守ることに増加した有効性
- ・過度な負債、破産及び経済的保障のために他人への依存を避けることによって、ファイナンシャル業務の増加したコントロール
- ・よく計画され、効率的にコミュニケーションされたファイナンシャル決定から生じる改善された個人リレーションシップ
- ・将来を見通し、支出を見越し、そして個人の経済的目標を達成することによって得られるファイナンシャル面での心配からの自由感覚

我々はすべて、毎日何百の意思決定をしている。これらの意思決定のほとんどは、全く単純なもので、ほとん

ど重要性をもっていないが、いくつかは複雑なものであり、個人やファイナンシャル状況に長期の影響をもつ。

誰もが意思決定を行っているが、どのようによりよい意思決定をするかを考える人はわずかしかない。ファイナンシャル・プランニング・プロセスは、図2-1に示すように、いかなる生活状況にも適応することができる6つのステップの手順からなる。

ステップ1：現在のファイナンシャル状況を測定する

第1のステップでは、収入、貯金、生活費及び負債に関する現在のファイナンシャル状況を測定することである。現在の資産負債バランス表及びさまざまな品目の支出金額を準備することは、ファイナンシャル・プランニング活動の基礎を与える。パーソナルファイナンス諸表は、あなたの目標を現在の収入と潜在的な収益獲得能力と調和しなければならない情報を与える。

ステップ2：ファイナンシャル目標を展開する

1年に数回、ファイナンシャル価値と目標を分析すべきである。この分析活動はお金についてどのように感じ、

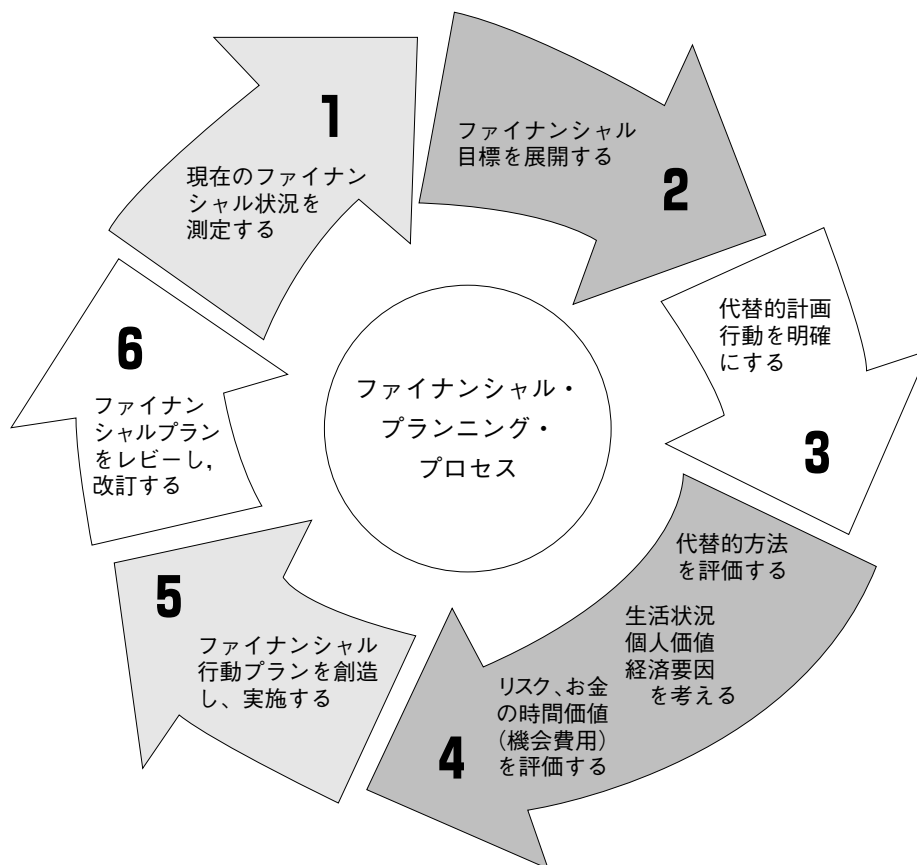
また何故そのように感じるのかを確認することを含む。あなたは、事実の知識又は他の影響に基づくお金について感じているか。あなたのファイナンシャル優先は、社会的圧力、家計ニーズ又は贅沢品に対する願望に基づいているか。経済状況は、あなたの目標や優先にどのように影響するだろうか。この分析の目的は、あなたのニーズと欲求を区別することである。

特定のファイナンシャル目標は、ファイナンシャル・プランニングに絶対必要である。他の人が、あなたのためにファイナンシャル目標を提案することができるが、追求すべき目標はあなたが決めなければならない。あなたのファイナンシャル・プランニング目標は、現在の収入の全支出から将来のファイナンシャルセキュリティのために、広範囲な貯蓄と投資プログラムの展開まで及ぶのである。

ステップ3：代替的計画行動を明確にする

代替的方法の展開は、意思決定をするときに不可欠である。多くの要因が利用可能な代替的方法に影響を与え

図2-1 ファイナンシャルプランニング・プロセス



るけれども、計画行動は通常、以下のカテゴリーに分類することができる。

- ・同じ計画行動の継続。例えば、あなたは毎月貯金する額がなお適切であると決心するだろう。
- ・状況の変更。あなたは定期普通預金の代わりに、マネー・マーケット（短期金融市場）預金を用いることを決定するだろう。
- ・新しい計画行動の採用。あなたは、クレジットカードの負債を完済するために、月々の貯金予算を使うことを決定するだろう。

これらのカテゴリーのすべてがあらゆる決定に当てはまらないが、これらは可能な行動計画を提示する。例えば、もしあなたが大学に行くために、フルタイムの仕事をやめたいと欲するならば、あなたは新しい計画行動をとるカテゴリーの下でいくつかの代替的方法を生み出さなければならない。

意思決定における創造力は、効果的な選択をするに当たり絶対必要である。可能な代替的方法のすべてを考慮することは、より効果的で満足のいく決定をするのに役立つ。例えば、多くの人は仕事や大学に行き始めるには、自動車を所有しなければならないと信じている。しかし、彼らは公共輸送機関、相乗り自動車、レンタカー、共同所有自動車又は社用車のような他の代替的方法を考えるべきである。

覚えておいて下さい。あなたが行動しないと決定したときは、あなたは「何もしない」ことを選んだのである。これは、危険な代替的方法である。

ステップ4：代替的方法を評価する

あなたは、生活状況、個人価値、現在の経済状態を考慮に入れながら、可能な計画行動を評価する必要がある。扶養家族の年齢は、貯蓄目標にどのように影響を与えるだろうか。レジャー時間をどのように過したいのか。利率の変化は、ファイナンシャル状況にどのように影響を与えるか。

(1) 選択の重要性

あらゆる決定は、他の代替的方法を閉じる。例えば、株式投資を決定することは、あなたが休暇を取ることができないことを意味するだろう。フルタイムの大学に行くことを決定することは、フルタイムの仕事をすることができないことを意味するだろう。機会費用は、選択することによって何かをあきらめるということである。こ

の機会費用は、意思決定のトレード・オフとして一般に呼ばれるが、常に金銭で測定されることはできない。それは、仕事よりも通学によってなしで済ませる金銭に差し向けるだろうが、大きな買物のためブランドを比較するために買回るのに消費される時間にも差し向けるだろう。いずれの場合も、あなたが金銭又は時間を放棄した資産は、失われた価値をもっている。

意思決定は、あなたの個人的及びファイナンシャルな状況の進行中の部分であろう。このように、あなたは意思決定から生じる失われた機会を考える必要があるだろう。意思決定は各人の状況や価値に基づいて変わるので、機会費用は各人にとって異なる。

(2) 評価のリスク

不確実性は、あらゆる決定の一部分である。大学に行くことを選択することとキャリア分野を選ぶことは、リスクを伴う。この分野で働くのが好きでなかったら、又はその職を得ることができなくなったら、どうなるだろう。他の決定は、保証付普通預金へ貯金する、又は少しの金額しかかからない品物を購入するというようなものは、非常に低程度なリスクとなる。大きな価値の何かを失う可能性は、このような状況下においては低い。

リスクの類型は、表2-1のように分けられるが、多くのファイナンシャル決定において、リスクを認識し、評価することは難しい。リスクを考える最良の方法は、あなたの経験や他の経験に基づいた情報を収集し、ファイナンシャル・プランニング情報源を活用することである。

(3) ファイナンシャル・プランニング情報源

あなたが旅行をするとき、しばしば地図を必要とする。ファイナンシャル・プランニングの道の旅行は、難しい種類の地図が必要となる。関連性のある情報は、意思決定プロセスの各段階で要求される。変化する個人的、社会的、経済的状況は、あなたが継続的に補い、かつ知識を最新のものにすることを必要とする。パーソナルファイナンスの意思決定をするときの利用可能な情報源として、以下のものがあげられる。

- ①印刷物とメディア（書籍、定期刊行物、ニューズレター、テレビ、ラジオ番組）
- ②デジタル情報源（ウェブサイト、ブログ、オンラインビデオ、社会メディア）
- ③ファイナンシャル専門家（ファイナンシャルプラン

表2-1 リスクのタイプ

インフレーションリスク	<ul style="list-style-type: none"> ・購買力の変化が引き起こす価格の上昇又は下落（デフレーション）のリスク ・今買うか、後で買うかの意思決定。もし後で買うならば、さらに多く支払わなければならないかもしれない。
金利リスク	<ul style="list-style-type: none"> ・（借入れ時の）費用及び（貯金又は投資時の）収益に影響をする利率の変化 ・金利が上昇している時に低い金利で借入れすることは、得することになる。変動レートローンは、高まる支払の結果として増加するだろう。 ・金利が低下するとき、貯金するならば、長期満期証書よりも6ヵ月貯金証書の方が低いリターンを稼げるだろう。
収入リスク	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の喪失は、消費者の支出の変化又はテクノロジーの拡大使用から生じるだろう。 ・失業のリスクに直面する個人は、彼らが雇用され、又は違う種類の仕事を得るために用いることができる技術を身につける間、救われなければならない。
個人リスク	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの要因は、決して望ましい状況を作り出さない。あるブランドの購入又はある店からの購入は、不便な場所で修理をしなければならないリスクを作り出すだろう。 ・個人リスクはまた、健康リスク、安全リスク又はさまざまな買い物若しくはファイナンシャル意思決定に結びついた追加費用の形をとる。
流動性リスク	<ul style="list-style-type: none"> ・いくらかの貯金と投資は、より高い収益の可能性を持っている。しかしながら、それらは現金に換えたり、又はかなりの損失なしに売することは、より難しいだろう。

ナー、銀行家、会計士、保険代理店、クレジットカウンセラー、納税準備者)

④ファイナンシャル組織（信用組合、銀行、投資、保険、不動産会社）

ステップ5：ファイナンシャル行動プランの創造と実施
ファイナンシャル・プランニング・プロセスは、あなたの目標を達成する方法を認識する行動プランを展開することを含む。例えば、あなたは支出を節減することによって貯金を増やすこともできるし、勤務中の臨時な時間を通じて収入を増やすこともできる。もしあなたが期末納税を心配するならば、各給料、第四半期納税、課税猶予退職プログラムにおける税金非難当期収入から留保

した金額を増やすだろうし、又は地方債を購入するだろう。短期又は中期の目標を達成するにつれて、次に優先する目標が焦点に入ってくる。ファイナンシャル行動プランを実施するためには、他の人からの援助を必要とするだろう。例えば、財産保険の購入のために保険代理店のサービスや株式、債券、投資信託を購入するために投資ブローカーのサービスを利用するだろう。

ステップ6：プランをレビューし、改定する

ファイナンシャル・プランニングは、特別な行動をとるとき、終わりのないダイナミックなプロセスである。あなたは、ファイナンシャル決定を定期的に評価しなければならない。少なくとも年1回、自分のファイナンスを完全にレビューすべきである。変化する個人的、社会的、経済的要因は、より頻繁な評価を必要とする。

ライフイベントがあなたのファイナンシャルニーズに影響を与えるとき、このファイナンシャル・プランニングはこれら変化に適合する乗り物を与えるだろう。この意思決定プロセスを定期的にレビューすることは、あなたが現在の生活状況と同一歩調をとって、ファイナンシャル目標や活動をもたらす優先的調整をするのに役立つ。

3 機会費用とお金の時間価値

あなたが選択をするとき、何かをあきらめなければならないことに気づきましたか。あらゆるファイナンシャル決定において、より望ましいと考える他のものを得るために、何かを犠牲にする。例えば、将来の買い物又は長期ファイナンシャル有価証券のためのファンドに投資をするために、現在の購入をなしで済ませるかもしれない。それとも将来の収益から信用払いをすることによって、現在の高価な品物の利用で利益を得るかもしれない。これらの機会費用は、個人及び財務資産の両方の観点からみることができる。

(1) 個人的機会費用

重要な個人的機会費用は、1つの活動のために用いられたとき、他の活動に用いることができない時間を含む。勉強のため、仕事又は買い物のために用いられる時間は、他に使用する時間のために利用することができない。時間配分は、いかなる決定のようにみられるべきである。つまり、あなたのニーズに適合するために、あなたの目標を達成するように、および個人価値を満足するために、

時間の使用を選択して下さい。

他の個人的機会費用は、健康と関係がある。貧弱な食習慣、睡眠不足又は運動回避は病気となる。学校や仕事から離れた時間は、健康管理費を増加させ、財務証券を減少させる。財務資産のように、個人資産（時間、エネルギー、健康、能力、知識）は注意深い管理を必要とする。

(2) ファイナンシャル機会費用

あなたは、さまざまなファイナンシャル決定の間に、絶えず選択をしている。これらの決定の中で、お金の期間価値、即ち稼いだ利子の結果としてお金の金額の増加を考慮しなければならない。今日、お金を使う代わりに、お金を貯金又は投資することは、将来においてそのお金よりもより多くの金額を生じることとなる。あなたがお金を使い、貯金し、投資し又は借りるどの時間も、機会費用としてそのお金の時間価値を考えるべきである。

あなたの普通預金からお金を使うことは、稼いだ利子を失うことを意味する。しかしながら、そのお金で買うものは、これら収益よりも高い優先権をもつだろう。買い物をするためにお金を借りることは、ローンにおける支払利息の機会費用を伴う。しかし、あなたの現在のニーズは、このトレード・オフに時間をかけさせることになるだろう。

① 利子の計算

以下の3つの額は、稼いだ利子という形で、貯金の時間価値を計算するために要求される。

- ・ 貯金の額（普通、元本と呼ばれる）
- ・ 利率の額
- ・ 時間価値の長さ＝預金

これら3つの項目は、利子の額を得るために、ますます増加する。単純な利子は、次のように計算される。

$$\text{貯金の額(元本)} \times \text{年間利率} \times \text{時間} = \text{利子}$$

あなたは、2つの方法で稼いだ利子からお金の増加価値を計算できる。即ち、あなたは、利用可能な将来価値である全体額を計算することができるし、又は将来において望まれる額の現在価値の決定をすることができる。

② 単一額の将来価値

預金されたお金は、時間をこえて増加するだろう利子を稼ぐ。将来価値は、現在の貯金がある利率やある時間枠に基づいて増加するだろう金額である。例えば、年利6%で預金された100ドルは、106ドルに増加する。こ

の額は、次のように計算される。

$$\text{将来価値} = 100 \text{ドル} + (100 \text{ドル} \times 0.06 \times 1 \text{年}) + 106 \text{ドル}$$

↑
元の貯金額

↑
稼いだ利子額

同じプロセスが、2年目、3年目、4年目と続くだろう。しかし、その計算は消費時間ではない。将来価値表は、そのプロセスを単純化する。将来価値表を利用するために、望んだ利率と時間枠の要因によって預金された額がますます増加する。例えば、10年間、年利8%の650ドルは、1,403.35ドル（650ドル×2.159）の将来価値をもつだろう。将来価値の金額は、常に元の金額よりもより大きくなるだろう。

将来価値の計算は、複利と呼ばれる。複利は、もし利子が元の利子に基づいてのみ支払われるならば、預金の将来価値をそれよりもより速く増加させる。あなたが預金をするやいなや、将来価値は大きくなるだろう。40歳のときに年利5%で1000ドル預金すれば、65歳のときには3,387ドルになるだろう。しかしながら、25歳のときに1000ドル預金すれば、65歳のときには7,040ドルの勘定残高という結果になるだろう。

③ 連続した預金の将来価値

かなりしばしば、預金者や投資家は定期的に預金する。年金は、連続したそれに等しい預金又は支払である。この場合、預金は一定の利率を稼ぐに違いない。もしあなたが6年間、年利7%で毎年1回、50ドルの預金を最初の年の終わりに始めるならば、6年目の終わりに357.65ドル（50ドル×7.153）をもつことになるだろう。

④ 単一額の現在価値

お金の時間価値の他の側面は、将来において望んだ額の現在価値を決定することを含む。現在価値は、ある利率とある時間枠に基づいた将来金額の現在価値である。現在価値の計算は割引とも呼ばれ、将来において望んだ金額を得るために、現在いくら預金をするかを定めるものである。もしあなたが今から5年後1000ドルを欲しいとし、貯金が年5%の利率で稼ぐならば、784ドル（1000ドル×0.784）を預金する必要がある。将来において、あなたが欲しいとする額の現在価値は、常に将来価値より少ないだろう。

⑤ 連続した預金の現在価値

あなたが望んだ年の計算からある額を取ることができるとするには、いくら預金をする必要があるかを定めるた

めに、現在価値計算を用いることもできる。例えば、あなたが、毎年9年間投資勘定から400ドル取りたいと欲し、あなたのお金が年8%の利率で稼ぐならば、あなたは2,498.80ドル(400ドル×6.247)の現在預金をする必要がある。

4 ファイナンシャル目標の達成

人生を通じて、我々のニーズは、常に財務資産と知能を高く使うことによって、満足させることができる。ファイナンシャル・プランニングは、これら財務資産を獲得し、使用するかを定めることを含む。パーソナルファイナンス・プランニングの8つの主要領域をあなたのファイナンシャル活動の編成のために使うことによって、多くの共通のお金についての失敗を避けることができる。

(1) パーソナルファイナンシャル計画の構成要素

図4-1は、8つの主要パーソナルファイナンシャル・プランニング分野の概観を示す。成功するファイナンシャル状況を達成するために、あなたは編成した計画と賢い意思決定を通じてこれら構成要素を調整しなければならない。

① 獲得

あなたは、雇用、投資又はビジネス財産から財務資産

を獲得する。財務資産を獲得することは、ファイナンシャル・プランニングの基礎である。というのは、これら財務資産はすべてのファイナンシャル活動のために用いられるからである。

② 計画

予算を通じた計画的支出は、達成目標と将来のファイナンシャルセキュリティの鍵である。費用を予測する努力と意思決定は、税を減らすにも役立てることができる。税の公正負担の支払能力は、それ以上でもそれ以下でも、あなたの財務資産を増加するのに極めて重要である。

③ 貯金

長期ファイナンシャルセキュリティは、緊急事態、予期せざる請求、主要項目の取替え、大学教育、船又は休暇場所のような特別な商品・サービスの購入のために定期的な貯金プランで始める。あなたが、いったん基本的な貯金プランを作ったならば、より大きなファイナンシャル成長を提供する投資のために、お金を用いるだろう。

貯蓄額は、現在の家計ニーズに適合するよう利用できなければならない。流動性は、価値の損失なしに、財務資産を現金に容易に換金する能力である。利子を稼ぐ当座預金口座、マネー・マーケット口座及びマネー・マーケット基金のような貯金計画は、流動性を提供しながら、あなたの貯金でお金を稼ぐ。

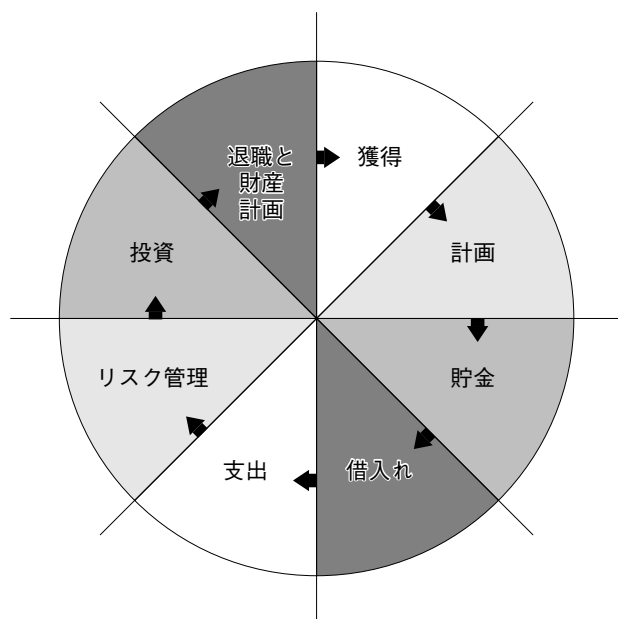
④ 借入れ

あなたのクレジット購入習慣に対する維持されたコントロールは、ファイナンシャル目標に貢献するだろう。クレジットの過剰使用と誤使用は、人の負債がこれら負債を支払うのに利用できる財務資産をはるかにこえる状況を生じるだろう。破産を宣告された人々は、賢い支出と借入れの決定で、このトラウマ(精神的外傷)を避けるだろう。

⑤ 支出

ファイナンシャル・プランニングは、人生の楽しみを防ぐためではなく、あなたが欲するものを得ることを手助けするために立案される。しかしながら、あまりにもしばしば、人々はファイナンシャルな結果を考慮することなしに購入する。何人かはファイナンシャルな困難性をつくり出しながら、抑えのきかない買い物をする。あなたは、生活費用と支出計画における他の財務上の債務を列挙すべきである。あなたが稼ぐよりも少ない支出が長期ファイナンシャルセキュリティを達成する唯一の方

図4-1 パーソナルファイナンシャル・プランニングの構成要素



法である。

⑥ リスク管理

適切な保険保護は、パーソナルファイナンシャル・プランニングの別の要素である。保険のあるタイプは、ファイナンシャルプランにおいて一般に見落とされる。保険会社は、障害保険を売るよりも生命保険を売ることにより積極的である。

多くの家計は過剰保険であるか又は保険保障が重複している。価値よりも多い保険財産はお金の浪費である。

⑦ 投資

多くのタイプの投資媒体が利用可能であるが、2つの基本的な理由で投資する。現在の収入に関心のある人は、定期的な配当又は利子をもたらす投資を選ぶ。対照的に、長期間の成長を望む投資家は、株式、投資信託、不動産及び将来における増加価値の潜在性のある投資を選んだ。

あなたは、ポートフォリオにおけるいろいろな資産を含む投資の多様性を達成することができる。一般的な投資アドバイスを得ることは易しいが、あなたの個人的なニーズや目標に適合するために特定の投資アドバイスを得ることは、より難しい。

⑧ 退職と財産計画

多くの人は、フルタイム雇用の完了によるファイナンシャルセキュリティを望む。しかし、退職プランはあなたの住居状況、レクリエーション活動及び可能性のあるパートタイム又はボランティアの仕事についても含まれる。お金や財産の他への移転は、できたら納税負担を最小化し、財務資産を受け取る利益を最大化するために、時間が決められる。財産移転手法の知識は、現

在及び将来の生活費用、教育支出、扶養家族の退職ニーズをまかなう行動の最良な進路を選択するのに役立つ。

(2) 弾力性のあるファイナンシャル計画

ファイナンシャルプランは、現在のファイナンシャル状況を要約し、ファイナンシャルニーズを分析し、及び将来のファイナンシャル活動を勧める正式化した報告である。あなたは自分自身の文書をつくり、ファイナンシャルプランナーから援助を求め、又はお金管理のソフトパッケージを使うことができる。

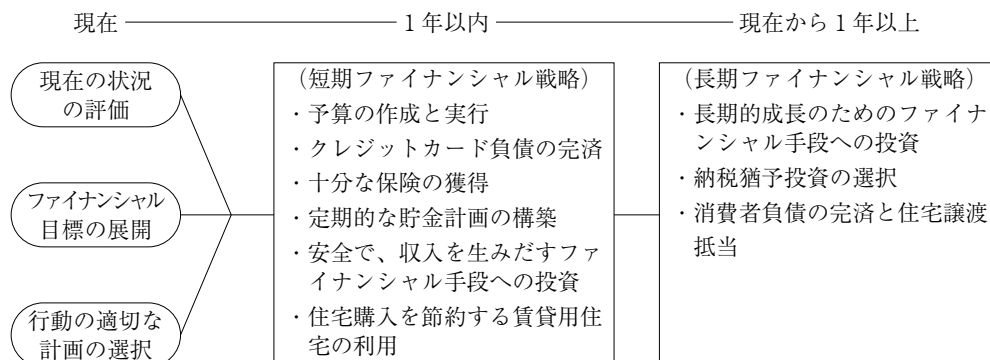
図4-2は、いくつかの生活状況の例に沿って、ファイナンシャルプランを展開し、実行するための枠組みを提供する。

(3) ファイナンシャルプランの実行

ファイナンシャルプランを実行する前に、プランをもたなければならない。しかしながら、いったん現在の状況を評価し、ファイナンシャル目標を確認したならば、次に何をするのか。成功するための最も重要な戦略は、短期の満足と長期のファイナンシャルセキュリティの両方に貢献するファイナンシャル習慣を展開することである。それは、以下のものを含む。

- ① よく考えられた支出計画を用いることは、節約し、将来のための投資をする間、あなたが収入の範囲内にとどまることに手助けするだろう。
- ② 適切な保険保護をもつことは、あなたがファイナンシャル災難を避けるために手助けするだろう。
- ③ 税や投資代替性について情報を知らされることは、あなたの財務資産を拡大するのを手助けするだろう。

図4-2 異なる生活状況のための行動ファイナンシャル・プランニング



5 レビュー

パーソナルファイナンスの分野は、近年、日本においても知られるようになったが、パーソナルファイナンスの講座や授業科目を開講している大学、大学院は現状では限られている。しかし、実務界では、ファイナンシャルプランナー（FP）の育成が行われ、またパーソナルファイナンスに関する学会も設立され、日本でもパーソナルファイナンスの研究が進められてきている。

これに対して、欧米、特に米国ではパーソナルファイナンスの必要性は早くから認識され、高校生の教科書においても、パーソナルファイナンスについての知識と個人としての取組みが教えられている（例えば、山岡道男・浅野忠克（2009）『アメリカの高校生が読んでいる金融の教科書』アспектなど）。また、学問の分野においても、以前からパーソナルファイナンスの研究が進められてきた。

このようなことから、欧米においては、パーソナルファイナンスに関する専門書がいくつも発行されており、本書もその1つである。本書は、既に紹介したように、パーソナルファイナンス全般について解説したもので、体系的な内容をもっており、パーソナルファイナンスの全体的概要が本書をもって理解できる点が高く評価できる。本稿においては、全19章のうち、今回、「第1章 パーソナルファイナンスの基礎とお金の時間価値」の重要と思われる部分を紹介したものであるが、ファイナンシャル・プランニング・プロセス、パーソナルファイナンシャル・プランニングの構成要素、異なる生活状況のための行動ファイナンシャル・プランニングなどの図式化と説明は分かりやすく、パーソナルファイナンシャル・プランニングを理解するうえで、大いに役立つと考える。

しかし、本稿で紹介した「機会費用とお金の時間価値」の節で説明されている預金利子の時間価値については、現在の日本の預金利子率の状況を鑑みると、注意を要する。というのは、日本では、数年来、預金利子は、普通預金についてはほぼゼロに近く、長期の定期預金においても極めて低水準にあるからである。従って、貯金の時間価値の概念は理論的には妥当するものであるが、日本の現状からみると、預金の将来価値を考慮に入れる状況下にはない。この点は、日本におけるファイナンシャル・プランニング、特に資産運用を考える場合に、留意しておかなければならない。

日本では、コーポレート・ファイナンスにくらべ、パーソナルファイナンス分野の研究がやや遅れている状況は否めないが、今後、日本でも個人単位（家計又は家族の中の個人）でのライフステージに合ったファイナンスに取り組むことが時代的要請となってくると予想され、このためのパーソナルファイナンスへの理解を手助ける解説書として、本書は有益な内容を与えてくれるものであるといえる。

参考文献

- Altfest, L. J. (2007) *Personal Financial Planning*, McGraw-Hill/Irwin (伊藤宏一/岩佐代市/駒井正晶/高橋文郎/森平爽一郎訳 (2013) 『パーソナルファイナンス—プロフェッショナル FP のための理論と実務』日本経済新聞出版社).
- Callaghan, G., Fribbance, I., & Higginson, M. (2012) *Personal Finance*, 2nd ed. Palgrave Macmillan.
- Walker, R. B., & Walker, K. P. (2013) *Personal Finance: Building your Future*, McGraw-Hill/Irwin